

『コミュニケーション紀要』 第24輯 2013年3月 抜刷  
SEIJO COMMUNICATION STUDIES Vol.24 MARCH 2013

## 日常生活における安心追求行動

川浦 康至・川上 善郎

The process of security seeking behavior in everyday life

KAWAURA Yasuyuki & KAWAKAMI Yoshiro

# 日常生活における安心追求行動

川浦 康至<sup>†</sup> 川上 善郎

## 目的

本研究で明らかにしたいことは、人々の「安心」を求める行動がどのようなメカニズムによって生まれ、どのような要因によって増大するかである。

「安心」は空気のような存在であり、ふだん意識されない。人は「何か」が起こったとき初めて安心を意識し、安心できない状態に気づく。「何か」はきわめて個人的ことがらの場合もあれば、社会的ことがらという場合もある。例えば、「9.11」は国際規模の出来事であり、多くの人々に「安心できない」気持ちを生み出した。一方、メタボ検診でメタボと診断されると、その基準が曖昧ながらも、人は自分の健康について「安心できない」と感じる。

本研究は、「安心できない」社会における「安心追求」行動を、社会心理学的にアプローチしようとするものである。

2009年5月、新型インフルエンザが流行した際、人々はこぞって「マスク」を着用した(川上・川浦, 2010)。通勤電車内はマスクをした人で占められた。人々は、マスクをすることで新型インフルエンザから逃れられると本当に思っていたのであろうか。新型インフルエンザは、これまでにない感染力を持ち、致死率の高さが喧伝され

た。そのような強力なインフルエンザを、マスクで防ぐことができると考えていたのだろうか。マスクの効果について確信をもっていたのか。効果がないと感じつつも、安心したくてマスクを着用しただけではなかったのか。安心追求する行動は、必ずしも安全を保証するものではない。

では、どうして人々は安心追求行動をとるのか。それは、安心追求行動を喚起する現象の多くが、確実な安全対策を取りえないものであるからである。確実に対処できる問題であれば、社会問題化することはない。社会全体で有効な対処方法を持ち得ないがゆえに、安心追求行動は活性化される。

社会的に対処方法のわからない、効果のはっきりしない事態に直面した時に、どのような人々が、どのような安心追求行動をとるのか。そして、そのような安心追求行動によって何がもたらされるのかを明らかにするのが本調査の目的である。

## 方法 手続き

調査は2012年1月10日、成城大学文芸学部「マスメディア論」(川上担当)で実施された。調査に当たっては回答したくない人は回答しなくてもよいことを教示した。授業出席者は140名、調査回答者は139名であった。このうち2名は回答が不完全だったため、有効回答は137票であった。

<sup>†</sup>Yasuyuki Kawaura  
Graduate School of Communication Studies,  
Tokyo Keizai University  
ykawa@tku.ac.jp

## 調査票の構成

Q1 日常生活で利用していて、災害時や緊急時、あるいは自身の健康など広い意味での「安心」に関連する身近な商品、メディア、情報、行動など24項目について平常時どの程度利用しているのか、また列挙された項目間に利用に関して特定な関係がみられるのかを分析するために設定した。「利用しない」から「よく利用する」までの5件法で質問した。

Q2 予備調査において学生が「安心できない」と感じていた事柄のうち、(A)自分自身の就職、(B)新型インフルエンザの流行、(C)福島原発による食品の放射能汚染、(D)東京での直下型大地震の発生、の4つの状況について、(1)感じている不安の程度（「不安を感じていない」から「とても不安」までの5件法）、(2)その事態へ実際にとると考えられる対処行動（状況により、8から12種類）、さらに、(3)それらの対処行動の効果（「ほとんど効果ない」から「効果がある」までの4件法）、(4)安心への結びつきの程度（「まったく安心できない」から「安心できる」までの4件法）、を質問した。さまざまな状況に対して感じる不安に、どの程度の対処行動を実際にとろうとするのか、またそのような対処行動が不安に対して効果があると考えているのか。

Q3 予備調査において自由記述で述べられた「安心できない」事象のうち、時間的展望を必要とするものを取り上げ、それぞれについて現在どの程度「気にしているか」をたずねた。回答は「まったく気にならない」から「とても気になる」までの5件法である。

Q4 「安心できない」との関連が想定される性格特性として、楽観主義と目標指向性をたずねた。前者は、中村（2000）の楽観主義尺度から「楽観的自己感情」と「悲観的自己感情」の各3

項目を採用した。後者は、白井（1994）の「時間的展望体験尺度」から「目標指向性」に関する6項目が採用された（いずれも5件法）。

(1)楽観：「結果がどうなるかはっきりしない時は、いつも一番よい面を考える」「いつもものごとの明るい面を考える」「自分の将来に対しては非常に楽観的である」

(2)悲観：「なにか自分にまずいことになりそうだと思うとたいていそうなる」「自分に都合よくことが運ぶだろうなどとは期待しない」「ものが自分の思い通りに運んだためしがない」

(3)目標指向性：「私には、将来の目標がある」「将来のためを考えて今から準備していることがある」

Q5 日常的な心理状態を測定するために日常気分項目を設定した。現在の毎日の生活で「安心できない」心理状態かどうかの心理指標として採用した。回答は「まったく落ち着かない」から「とても落ち着いている」までの5件法である。

Q6 不安な状況に直面した場合にどのような対処行動をとるのか。「コーピング尺度」（尾関、1993）14項目から3対処型各3項目を採用した（4件法）。対処法として、原因を探るための行動をとる「問題焦点型」、情緒的に元気を出すようにする「情動焦点型」、現状の問題点から目をそらす「回避・逃避型」である。これらは高ストレス状況における対処行動の典型的パターンと言える。以下は実際に用いた項目である。

(1)問題焦点型：「現在の状況を変えるよう努力する」「問題の原因を見つけようとする」「いろいろと情報を集める」

(2)情動焦点型：「自分で自分を励ます」「物事の明るい面を見ようとする」「今の経験はためになると思うことにする」

(3)回避・逃避型：「先のことをあまり考えない

ようにする」「大した問題ではないと考える」「こんなこともあると思ってあきらめる」

Q7 先の東日本大地震では、調査対象者間で体験の差が大きかった。3月11日は大学の休暇中にあたり、地元での体験であることから個人差が大きいと考えられるため、地震時の恐怖度をたずねた。

Q8 同様に、放射能汚染に関する不安の程度もたずねた。

Q9 性別

Q10 学年

Q11 住居（自宅・自宅外）

Q12 いまの日本の「時代の気分（雰囲気とかイメージ）」（自由記述）

本報告では、上記設問のうち、Q2とQ12を中心に、それぞれ「安心できないことがら」に関する分析（研究1）、「時代の気分」に関する分析（研究2）を行う。

## 研究1 「安心できない」ことがらに関する安心過程

### 目的

安心と安全はしばしばセットで使われる。「安心と安全の街」「安心・安全へのとりくみ」といった表現もめずらしくない。しかし、こんな例はどうだろうか。

「青パト」による巡回を目にした人はどう思うだろう。実施側は、これによって安心安全がもたらされると強調する。だが、こう思う人もいるのではないだろうか。確かに巡回パトロールで犯罪は少なく、その意味で安全な街なのだろう。しかし、巡回は、その街が安全ではないから実施されている。ここはむしろ危険な街なのではないか。安全なはずなのに安心できない、あるいは安心と

安全が両立しないとは、一種の逆説でもある。

そもそも、安心とは、安全とは何だろう。この2つのことばは日常的にはこう解されている。

「安心」とは「心配が無くなって気持ちが落ち着く様子」、それに対し、「安全」は「身（組織体）に危険を、物に損傷・損害を受けるおそれが無い状態（様子）」である（新明解国語辞典第5版）。このように解釈すると、心配の元は危険以外にも存在し、危険を受ける恐れがないからといって安心がもたらされるわけでもない。もちろん、安心の前提に安全は欠かせないが、安心を直接作り出すことはできない。安心は結果であり、気を持ちようという側面もあるからだ。

私たちは、一定の心配をかかえ、日々、安心を求めて生活している。しかし、心配（不安心）の種は尽きず、なかなか安心は得られない。学生であれば、当面の心配は、自分をはたして就職できるのかであろうし、市民としては、放射能汚染は一体いつまで続くのかであったりしよう。

「安心できない」ことに対して、人はどんな対策を取り、その効果をどのように評価しているのだろうか。その結果、どの程度、安心できているのか。こうした一連の過程は、心配なことがらの性格によっても異なる。実際、自分だけで対処しようとする心配なことがらと、自分ではどうしようもない心配なことがらとでは、対策のとりようも異なれば、対策の効果にも自ずと限界がある。

今回の調査でたずねた「安心できない」こと、つまり心配なことがらは、「就職活動」「新型インフルエンザの罹患」「食品による内部被曝」「直下型地震発生」の4つである。これらは、いずれも予備調査で得られた学生たちの「心配の種」であり、大きく3つに分けられる。新型インフルエンザや食品による内部被曝、直下型地震発生はいずれも「排除しえない事態」（Beck, 1986）に分類

されるが、インフルエンザ罹患は個人的に排除しうる事象であるのに対し、内部被曝や大地震は個人的対策では限界のある事象である点で、両者は異なる。かたや就職活動は個人的対策を必要とする半面、それだけでは解消しがたい、中間的な事象と言える。こうした相違を念頭に、心配から安心に至る心理学的過程、すなわち安心過程を以下で検討したい。

## 方法

### 変数の整理

本分析で用いる変数は以下の4つである。

(1) 不安 事象について感じている不安を、「不安を感じていない」「少し不安」「まあ不安」「不安」「とても不安」の5件法でたずねた結果を用いる。

(2) 対策 その不安に対応して実際に取ると思う対策の回答から、選択個数(対策レパトリー数)を個人ごとに算出した。対策数は事象で異なり、就職活動12、新型インフルエンザ9、内部被曝8、直下型地震9である。

(3) 効用感 それらの対策がどの程度効果があると思うか、に対する回答を用いる(「ほとんど効果ない」「あまり効果ない」「少しは効果がある」「効果がある」の4件法)。

(4) 安心 上記の対策をとることによって、どの程度安心できると思うか、それに対する回答を用いる。回答は、「まったく安心できない」「あまり安心できない」「少しは安心できる」「安心できる」の4件法である。

以上の4変数間には、図1のような関連が想定される。まず、「不安」は、その低減に寄与しそうな対策の実行を喚起する。「不安」が大きいと、対策レパトリー数、「対策」が増すと考えられる。そして「対策」の多寡は、結果として、対策

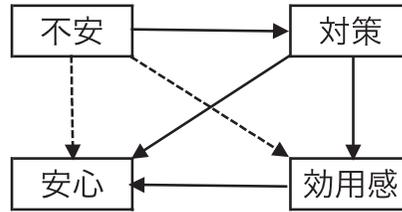


図1 安心過程に関するモデル  
注：破線は負の影響を示す。

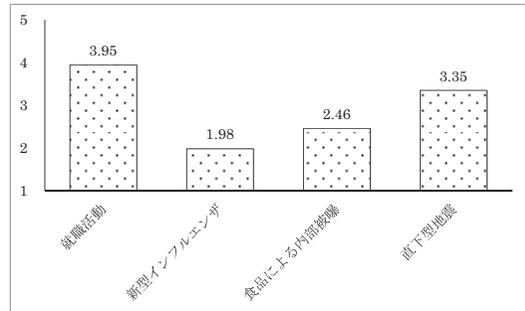


図2 心配なことがらの不安度

による効果想定、「効用感」を左右しよう。その効果想定 の程度は、対策の多寡とともに「安心」の程度を規定するはずである。ただし、「安心」は事象の「不安」程度によって割引かれる可能性がある。同様に、「効用感」も「不安」によって割引かれよう。

## 結果

### 不安

各事象の不安度は図2のようになった。平均値で見ると、最も不安度が高いのは就職活動で、以下、直下型地震、食品による内部被曝、新型インフルエンザと続く(すべての組合せで  $p < .05$ ,  $H_0$  lm 検定)。就職活動の不安度が高かったのは、学生たちにとって重要なことがらであることに加え、調査時期が、この種の企画の多い1月だったことも影響していよう。

### 対策

各事象への対策に関する回答は表1のようで

表1 取ると思う対策（複数回答，数字は人数）

就職活動	新型インフルエンザ	食品による内部被曝	直下型地震				
就職セミナーへの参加	99	手洗いをする	112	産地を確かめて購入する	61	懐中電灯の用意	82
自己分析の徹底	91	うがいをする	100	調理する前によく洗う	33	飲食料品の備蓄	80
企業研究	84	マスクを着用する	63	インターネットで情報収集する	32	避難経路の確認	50
学生同士の情報交換	83	予防接種を受ける	50	ミネラルウォーターを飲むようにする	28	iPhone や Android のソフト	49
SPI などの勉強	78	栄養のあるものを食べる	39	調理に水道水を使わない	10	携帯用充電器の用意	47
面接方法の練習	76	体力をつける	29	安い外食を避ける	8	バッグに避難用品を入れる	36
語学や資格の取得	59	早く寝る	25	外国産のものを食べる	3	倒壊防止金具の設置	34
新聞を毎日読む	44	人ごみを避ける	17	東京をはなれる	2	部屋の整理整頓	24
インターン制度を利用する	42	乗客の多い車両を避ける	4			発電機付きのラジオの用意	22
自分の長所をふやす	37						
早期からの就職活動	27						
大学の成績を高める	15						

注：太字は回答者の過半数を示す。

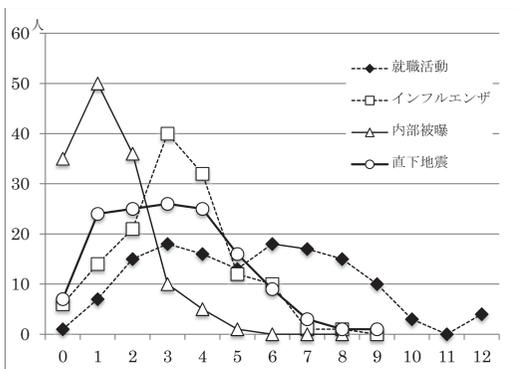


図3 「心配なことから」と対策レポーター数

あった。全体として、コストの低い対策、既に実施されていそうな対策が上位にきている。例えば、就職活動では、学内でも開催される「就職セミナーへの参加」、インフルエンザでは「手洗い」、食品については「産地の確認」、直下型地震では「懐中電灯の用意」、がそれぞれ1位となっている。回答者にとって喫緊の心配ごとである就

職活動では、12種類の対策のうち半分が過半数の回答者が行う（と思う）と答えている。他方、インフルエンザと直下型地震はいずれも9種類中2種類にとどまった。内部被曝では8種類の対策中、過半数の回答者があげたものではなく、最上位にあげられた対策でも139人中61人と、4割を占めるにすぎない。

ついで個人ごとに、選ばれた対策の個数を算出、それを対策レポーター数とした（図3）。就職活動やインフルエンザにくらべ、食品による内部被曝や直下型地震に対する対策レポーターは理論上の平均値（例えば、就職活動の場合は6となる）より低い側に分布している。

### 効用感

対策に対する効用感の結果を図4に示す。効用感の最も低かった事象は、食品による内部被曝だった。それについて低いのが直下形地震で、以下、就職活動とインフルエンザがほぼ同程度の効

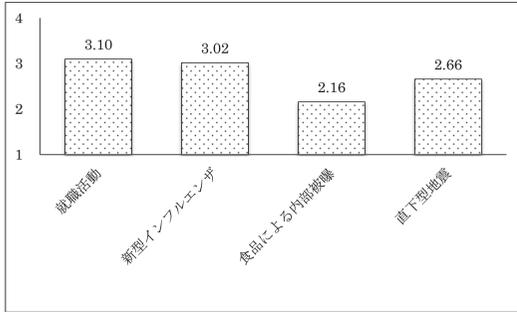


図4 「心配なことから」と対策の効用感

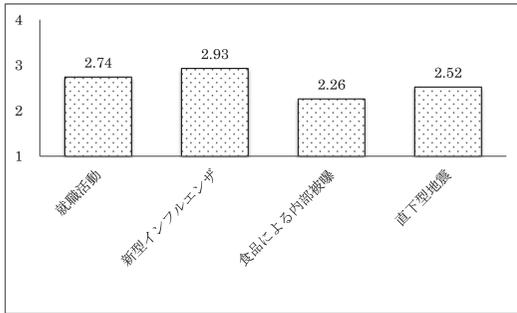


図5 「心配なことから」と対策後の安心度

用感を示した。個人的対策では対応困難な事象2つの効用感が低い（就職活動と新型インフルエンザの間を除く、すべての組合せで  $p < .05$ ）。

## 安心

対策を高じることで、どの程度、安心できるのだろうか。その結果を図5にかかげる。

安心度の最も高いのは「新型インフルエンザ」で、以下、就職活動、直下型地震、食品による内部被曝と続く（就職活動と新型インフルエンザの間を除く、すべての組合せで  $p < .05$ ）。ただ、全体として、事象間の差は小さく、効用感でみられた事象差にくらべても、小さい。いずれも平均値が2と3の間に来ていて、4つの事象に対する安心度は「あまり安心できない」と「少しは安心できる」の間にある。

## 安心過程

安心過程の検討を行った結果を図6に示す。結

果は有意なパスのみによる解析結果である。いずれも CFI が 0.9 以上、RMSEA が 0.1 未満と、適合度は高く、説明力のあるモデルとなっている。

就職活動から見ていこう（図6(A)）。不安が対策レパートリーを増やし、対策レパートリーは効用感を高めている。しかし、効用感は安心に結びつかない。安心は対策によってもたらされるが、不安がその影響を減じている。不安は効用感も低めていて、その係数は対策からのパス係数を上回る。就職活動における不安の影響は強いと言える。効用感が安心に結びつかないのは、就職対策をどこまでやればいいのか、その判断がむずかしいからだろう。だからといって、何ら対策を講じないわけにも行かない。対策が安心と結びついているのは、いわば安全に近い感覚なのかもしれない。できる限りの対策は実施しているのだから、何となるかもしれないという期待である。

新型インフルエンザでは罹患不安が対策を促し、対策の多さが効用感を高める（同図(B)）。効用感は安心を高め、安心は対策によっても高まる。不安による負の影響は見られない。対策を多く実行することが安心に直結し、不安の影響力は及んでいない。対策が効用感と安心の両方を高め、安心に不安が影響していない、という結果は、「安心できない」ことが安心できる状態に変わる過程の典型例と言えよう。

食品による内部被曝と直下型地震の2つの結果はよく似ている（同図(C)と(D)）。いずれも、不安が対策を促し、対策が効用感を高める働きをしている。ここまでは、先に見た2つのモデルとも共通した結果である。効用感が安心を高める点はインフルエンザと共通している。対策から安心に向かうパスが見られない点で、就職活動や新型インフルエンザの場合と異なる。つまり、いくら対

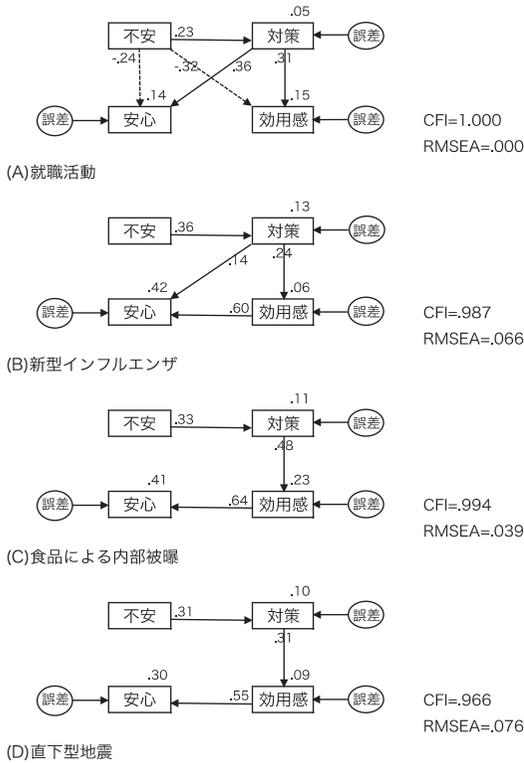


図6 安心過程に関するパス図と標準化推定値

注：破線は負の影響を，ボックス上の数値は重相関係数を示す。

策を講じても、それが安心に結びつくようにはたらかない。効用感から安心へのパスは、効果があってほしいという期待のあらわれと解釈できる。

まとめ

「対策」が「安心」と「効用感」をもたらし、その効用感が「安心」をもたらす。今回の分析において、こうした、いわば理想的な関連が見られたのは新型インフルエンザの流行のみであった。

今回の調査では、不安や対策と安心を同時にたずねている。そのため、そもそもの不安に対策や、対策の評価が作用している可能性もある。今後、時系列的な調査が望まれる。

(川浦康至)

研究2 震災後の「時代の気分」

目的

本研究の対象者は大学生と限られたものではあるが、いまだ進路が確定していない年代であり、時代の雰囲気非常に敏感であり、強い影響を受ける世代であると考えられる。以下では、2011年3月11日以降、学生たちが現代日本をどのようなイメージとしてとらえているかを分析してみたい。阪神大震災時も同様であったが、大きな災害・事件は人々に共通な体験を与え、災害について過剰なまでの会話を交わし(川上, 2004), その結果、一定の共通イメージを共有するにいったと考えられる。

「時代の気分」ということで、記憶に新しい一例をあげると、1987年から1991年に起こったバブル景気があげられよう。さまざまな経済指標によって示されるバブル経済の実態とは別に、身近なところで「バブル社会」というような社会現象が引き起こされ、一般市民の物の考え方、実際の消費行動も「バブル」という言葉で説明できるような変化を起こさせてしまうのであった。まさに社会現象としての「バブル」である。

しかしながら、時代の気分は後になって実証するのは難しい。時間がたって振り返ってみた時に、あれは確かにバブルだったと述べられることも多いが、その時代にあってどのようなイメージであったのかは、社会調査によって記録される必要があるだろう。

東日本大震災から1年数か月たった時点で学生たちはどのような「時代の気分」ととらえているのかを明らかにしたい。本項では最初に全体としてどのような雰囲気、イメージが形成されているのかを分析する。ついで、補足的ではあるが、それらの形成されたイメージと基本属性(性・学年)との関連、震災での体験との関連、放射能へ

の態度、性格的な違いとの関係を分析しイメージ形成にどのような差異がうまれるのかを明らかにする。

## 方法 手続き

「現在の日本の『時代の気分』（雰囲気とかイメージといったものです）とは、どのようなものですか」（Q12）という問いに対する自由記述結果を分析対象とする。

自由回答欄に記入された件数は、137人中、101名73.7%であった。36名は記述がなかったので、分析は、それらの回答者をのぞいて内容分析を行った。内容分析は、樋口耕一の開発したソフトKH Coder（樋口、2012）を用いた。

分析は、KH Coder で使用した辞書、「茶釜」（注1）に登録されていない言葉のうち出現頻度が2回以上の単語をタグに登録し用いた。また、複合語を抽出し、出現頻度が2以上で分析に必要と考えたものを同様にタグに登録した（注2）。

注1：茶釜（ちゃせん）はフリーの形態素解析ツールである。

注2：複合語は、被災地などの単語の場合、被災地で辞書に登録されていない場合には、「被災」と「地」に分けられてしまい、その後の分析で「被災地」としてはあつかわれず、複合語検索でこのような単語を探し出してあらかじめタグに登録する。

## 外部変数の作成

調査票の調査結果とイメージ空間とを関係づけるために、調査票の中から外部変数として以下の4変数を採用した（カッコ内は実数）。

- (A) 学年×性別：1. 2年男性(16), 2. 3年以上男性(23), 3. 2年女性(52), 4. 2年以上女性(46)

- (B) 地震経験：1. 怖い思いしなかった(23), 2. まあ怖い思いをした(62), 3. 怖い思いをした(51)
- (C) 放射能汚染の不安：1. 感じていない(28), 2. 少し不安(54), 3. まあ不安・不安・とても不安(55)
- (D) 対処行動タイプ（注3）：1. 諦念受け入れ型(63), 2. 情動焦点型(46), 3. 問題焦点型(27)

注3：不安状況に陥った時に、どのように問題に対処するかのタイプ分けである。諦念受け入れ型は、「9. 今の経験はためになると思うことにする」「8. こんなこともあると思ってあきらめる」「2. 先のことをあまり考えないようにする」など回避逃避型の一つと考えられる。情動焦点型は、「3. 自分で自分を励ます」「4. 物事の明るい面を見ようとする」など情緒的に元気をだそうとする。問題焦点型は、「7. いろいろと情報を集める」「6. 問題の原因を見つけようとする」原因をさぐろうとするものであった。

## 結果

### 頻出語のクラスター分析

出現頻度4以上の単語を分析対象とし、クラスター分析を行った（Ward法による）。結果を図7に示す。

同図から明らかなように、語群は大きく8つに分けられた。6番目のグループは2つのサブグループに分けたので、都合9つの群に分けられた。以下、第I群から第IX群の9群の特徴を述べる。

第I群は、「イメージ」「政治」「経済」「現在」「良い」「あまり」「絆」「自分」「協力」から構成される。このグループが形成するイメージは、震

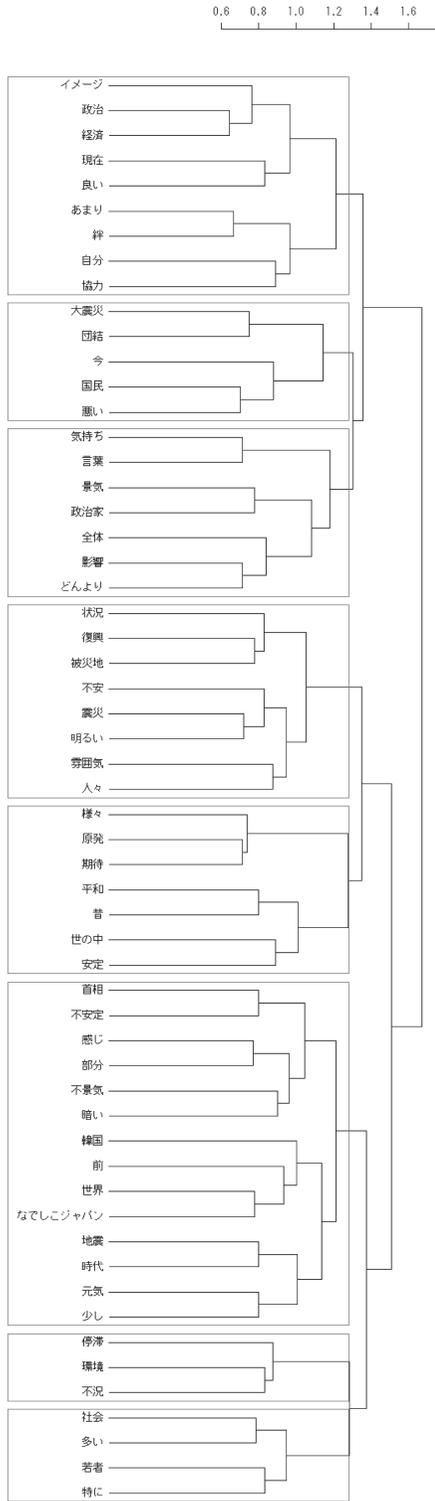


図7 気分に関する頻出語のクラスター分析

災直後には、協力や絆が存在したが、時間がたった現在では、風化し、政治、経済的にも暗いイメージが支配的であるとする。震災直後の協力や絆のイメージとの対比で現在では、そのようなものがなく逆に暗く身勝手なものが支配するイメージという (ID は回答者番号)。

このグループに分類される事例は、「私は、現代に薄暗いイメージを持っています。政治、経済が安定せず、震災の影響で人々の気持ちが低迷しているのではないかと思いますからです」(ID=31)。「自己中心的で、世間体ばかりを気にして見栄を張り合っているようなイメージです。東北の大地震が起きて節電や募金など絆を胸に協力し合っていたのに、今ではそういった話はあまり聞かなくなりました」(ID=91)などである。

第Ⅱ群は、「大震災」「団結」「今」「国民」「悪い」からなる。このグループが形成するイメージは、現状は混沌としているけれど、国民の団結は厳然として存在している。政治などの状況が混沌としているけれど、震災後に生まれた団結は国民の中に存在しているのが救いであるというややポジティブなイメージである。

「東日本大震災が起きてからは、日本の国民みんなが助け合って頑張っていこうという団結したような雰囲気に変わったと思います。しかし、政治情勢はどんどん悪化しているように感じます。国民は団結しているけれど、政治家たちの考えバラバラ。今の日本はそんな感じの印象です」(ID=127)。「混沌。変化。悪いものが、膿がでてきた気がする。ただ国民も何にも知らなかった、今まで放置してきたことへの罰を受けているだけで、変わろうとしているように感じる」(ID=138)、などである。

第Ⅲ群は、「気持ち」「言葉」「景気」「政治家」「全体」「影響」「どんより」などである。このグ

グループは、震災後の「頑張ろうニッポン」という言葉だけが上滑りし、指導者が不在で、社会全体がどんよりとしていて、まとまりがないというネガティブなイメージを形成している。

「暗い。頑張ろう日本とか言葉だけで、気持ちの面ではそんなにポジティブでない」(ID=121)、「どんよりしていてバラバラ。全体的に曇っているけど、一部だけピカッと明るい感じ。全体でみると、景気不安だとか、震災の影響で、どんよりしていて、政治家は短期ですぐ代わるし、指導者がバラバラのイメージ。でも、なでしこジャパンとか見ていると、一部は朗報もあるし、明るい部分もあるし、震災のおかげでまとまりや、感謝する気持ちなど、良い部分も見つけることができる」(ID=97)。

第Ⅳ群は、「状況」「復興」「被災地」「不安」「震災」「明るい」「雰囲気」「人々」などである。このグループは、遅々として進まない被災地の復興状況についてのイメージを持つ。そして被災地の状況を自分の問題としてとらえようとしている。そこから、被災地の側とそうでない側のギャップがイメージされることになる。

「行き詰っている感じ、『復興』と叫ぶ被災地以外の地域と実際に現実に直面している被災地とでは、大きく雰囲気も異なっています。前者は、復興への期待や放射線への恐怖かせないまぜになった不安定な雰囲気、後者は様々なことへの諦めによって悪い意味で安定した雰囲気のように私は思えました」(ID=14)、「震災以降、やはり暗く憂鬱な気分が続いている。私たちの学年にとっては、不況による就職難など不安を感じさせるニュースが多く目につく。季節が冬なこともあり、被災地の模様をみると、仮住まいで寒々しく暮らしている人々がたくさんいて、復興しているとは、とても言い難い状況が続いていると思う」

(ID=18)。

第Ⅴ群は、「様々」「原発」「期待」「平和」「昔」「世の中」「安定」からなる。このグループの形成するイメージは、マクロな視点からのもので、日本は、原発事故も含めて問題が山積しているけれど、そんなことに無頓着でいられるというイメージがあり、日本は、平和な国であり、自分の力で真剣に取り組むという姿勢に欠けているというイメージであろうか。

「いくつかの問題はあるけれど、平和な国だと思う。戦争とか、そういったものはないが、原発の放射能問題などで国民の危険があるということは否定できない。外国の協力なしでは切り盛りできない国というイメージがある」(ID=58)、「平和すぎて、平和ボケしている。昔の人たちには真剣さがとても及ばないと思う」(ID=112)。

第Ⅵ群は、「首相」「不安定」「感じ」「部分」「不景気」「暗い」からなる。このグループは、首相の交代など政界の不安定感、不景気の継続による経済の不安定感、震災などにより社会が不安定であるというイメージが主流。なにか積極的な面をみつけだそうとしているが、力強くはない。

「現在の日本は震災や異常気象、政治の不安定感などネガティブな雰囲気につつまれていて、人々は常に漠然とした不安感、危機感を感じている」(ID=26)、「ここ数年にわたって首相が定まらず、政界も不安定に感じる。今年は東日本大震災もあり、不安は一気に高まった。一方スポーツ界ではなでしこジャパンなどの活躍もあり、明るい一面も見せていると思う」(ID=66)、「不景気や震災など日本全体にとってネガティブな出来事が続き、ますます幸先がよくないことはわかっている。しかし、そういった暗いことに目を向けず、とにかく『明るいよう』と呼びかける。特にメディアと、実際に苦しんでいる人たちの間に

ギャップと深い溝があるように感じる」(ID=95)。

第Ⅶ群は「韓国」「前」「世界」「なでしこジャパン」「地震」「時代」「元気」「少し」からなる。国内問題だけで解決がつかないというイメージ。韓国、中国への差別意識、TPP問題などもっと世界に目をむけて、成長したらよいというイメージ。なでしこジャパンの活躍にみられるように、世界に向かって元気を発信するというイメージであろう。

「日本国内に留まり、外に出ずに外の批判をしているような感じがします。これは政治のTPP問題と、韓国や中国への差別感情に対してそう感じます。私自身TPPは賛成で、韓国も中国も大好きなので、もっと世界の刺激を受けて日本を成長させて行けば良いのと思います」(ID=137)。「スポーツについては良いニュースが比較的多かったと思うので、なでしこジャパンとか、そういうところからどんどん上向きになってほしいと思う。スポーツは世界共通であり、世界中のみながつながっている。楽しめるものだから、ここから日本の元気を発信して行ってほしい」(ID=120)。

第Ⅷ群は「停滞」「環境」「不況」からなる。このグループは発展性のなさであり、就職、不況、政治などなど、すべてがおちこんだままで停滞した状況であるというイメージ。

「かなり停滞していると思う。不況や就職氷河期や環境問題や国債など数えきれないほどの問題を抱え、日本全体が落ち込んでいると思う」(ID=105)。「停滞だと思います。政治はこう着状態、経済も同様。震災によって復興はあっても発展はしづらい状況になったと思うので、状況は、世界が発展傾向にあったとしても日本は難しい局面である」(ID=105)。

第Ⅸ群は、「社会」「多い」「若者」「特に」からなる。このグループが示すイメージは、若者についてのイメージである。若者世代の無気力感をイメージできる。その一方で、ハングリー精神の欠如、社会を甘く見るなど若い世代の無気力との指摘に対してそれは若者だけではないともいう。

「日本全体に元気がないと思う。なかでも、我々大学生に多い気がする。インターネット中心の生活をしていたり、アルバイトしない人がいるなど、社会の方々と接する機会を重要としていないと感じる。これからの日本を築き上げていく私たちの世代が盛り上げていかなければならないと感じています」(ID=72)。「ゆとり世代の若者は、社会を甘く見ているという風潮が非常に強いように感じる。私の周りの20代前後と30代前後の人を較べても特に変わりはないし、大人でも社会を甘く見ている人は多いのに、なぜゆとりを強調するのか疑問だ」(ID=103)。

### 各グループの特徴

以上の9グループと、外部変数(学年×性別、地震経験、放射能汚染の不安、対処行動スタイル)との関係を分析する。クラスター分析で抽出された単語からgroup1からgroup9のカテゴリ化を行い、各グループの特徴を $\chi^2$ 検定によって関連を確かめた。

まず、性別との関係では、いずれの群も有意な差はみられなかった。グループと性別の間に特別な関係は見られなかった。

学年との間では、group9で3年生が多かった( $\chi^2=7.179$ ,  $p < .05$ )ことを除けば、有意な差はみられなかった。若者イメージをもつものは3年生に多いという結果である。

次に3.11と関係の深い「食品の残留放射能に対する態度」は、いずれのグループとも有意な差

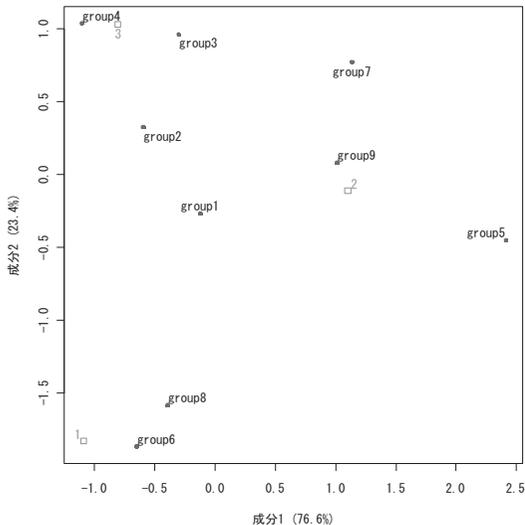


図8 地震体験と気分に関する頻出語 group に関する対応分析

注: □1 あまり怖い思いをしなかった, □2 まあ怖い思いをした, □3 怖い思いをした

がみられなかった。第V群は、イメージの中に「原発」への言及があるにもかかわらず、放射能への不安との間に関連がみられなかった。

3.11で、どのような地震体験をもったのかについては、group4 ( $\chi^2=10.348$ ,  $p<.01$ ), group5 ( $\chi^2=12.979$ ,  $p<.01$ ), group6 ( $\chi^2=9.581$ ,  $p<.01$ ) で有意な差が見られた。対応分析の結果を図8に示す。

「1. あまり怖い思いをしなかった」は、group6 ( $\chi^2=9.581$ ,  $p<.01$ ), group8 ( $\chi^2=7.179$ ,  $p<.05$ ) に対応している。地震で怖い思いをしていない人々は、状況の不安定感のイメージを、さらに停滞感を強くイメージする。他方、「3. 怖い思いをした」人は、group4 ( $\chi^2=10.348$ ,  $p<.01$ ) に関連し、被災地での復興への共感とそうでない地域とのギャップというイメージを持つ。

また有意な結果ではないが、group3の、がんばろうの言葉だけが流れ、実際にどんよりとした状態というイメージに特徴づけられている。

「2. まあ怖い思いをした」人はgroup5 ( $\chi^2=12.979$ ,  $p<.01$ ) に多い。マクロな視点から様々な問題があるにもかかわらず、平和に生活しているイメージを持っている。このように地震での体験は、形成されるイメージと強く関連していることが明らかになったと言えるだろう。

個人属性としての、不安への対処行動のタイプ分けとは有意な関連はみられなかった。

(川上善郎)

## 文献

- Beck, U. (1986). Risikogesellschaft. Suhrkamp. 東廉・伊藤美登里 (訳) (1998). 危険社会：新しい近代への道 法政大学出版社
- 樋口耕一 (2012). KH Coder [http://khc.sourceforge.net/]
- 川上善郎 (2004). おしゃべりで世界が変わる 北大路書房
- 川上善郎・川浦康至 (2010). 新型インフルエンザはどのように語られたのか コミュニケーション紀要 (成城大学), 21, 35-59. [http://homepage2.nifty.com/rumor/influ/influ.pdf]
- 中村陽吉 (編) (2000). 対面場面における心理的個人差：測定の対象についての分類を中心にして プレーン出版
- 尾関友佳子 (1993). 大学生用ストレス自己評価尺度の改定：トランスアクション分析に向けて 久留米大学大学院比較文化研究科年報, 1, 95-114.
- 白井利明 (1994). 時間的展望体験尺度の作成に関する研究 心理学研究, 65, 54-60.

## 付録 調査票と単純集計

Q1. あなたは、ふだん以下のことがらをどの程度行いますか。1 利用しない、2 ほとんど利用しない、3 ときどき利用する、4 まあ利用する、5 よく利用する、の5段階で答えてください。

	1 利用しない	2 ほとんど利用しない	3 ときどき利用する	4 まあ利用する	5 よく利用する	不明・無回答	計
1. コンビニ	1	2	11	28	95	0	137
2. 自動販売機	7	22	32	32	44	0	137
3. ファストフード	3	23	52	34	25	0	137
4. 栄養ドリンク	46	37	25	16	13	0	137
5. ビタミン剤	68	24	17	13	15	0	137
6. マスク	26	41	28	23	19	0	137
7. 食品の産地表示	52	46	18	18	3	0	137
8. お酒	7	20	29	32	49	0	137
9. ウォーキング	39	39	32	19	8	0	137
10. 携帯メール	2	0	9	15	111	0	137
11. SNS	11	11	15	21	78	1	137
12. 占い	43	37	38	14	4	1	137
13. 100円ショップ	11	42	51	23	10	0	137
14. オンラインショッピング	38	31	18	34	16	0	137
15. インスタント食品	6	23	30	44	34	0	137
16. 胃腸薬	73	24	14	11	14	1	137
17. ミネラルウォーター	22	25	30	19	41	0	137
18. 食品の成分表示	42	33	28	17	16	1	137
19. たばこ	108	2	2	9	16	0	137
20. スポーツジム	111	10	8	4	4	0	137
21. テレビの予約録画	31	7	20	13	66	0	137
22. Twitter	21	4	5	10	97	0	137
23. 評価サイト	26	25	31	38	17	0	137
24. ホームセキュリティ装置	84	23	14	8	6	2	137

Q2. あなたは、次のことがらについて、日ごろどのように感じていますか。

[あなた自身の就職]

A あなたは自分の就職について現在どの程度不安を感じていますか。

1 不安を感じていない	2 少し不安	3 まあ不安	4 不安	5 とても不安	不明・無回答	計
5	14	19	43	55	1	137

Q2-1B 就職を乗り切るための方法はいろいろあります。あなたが実際にとる活動に○をつけてください。〔複数可〕

- |                   |                  |                     |
|-------------------|------------------|---------------------|
| 1. 就職セミナーへの参加(99) | 2. 自己分析の徹底 (91)  | 3. 面接方法の練習 (76)     |
| 4. 語学や資格の取得 (59)  | 5. 大学の成績を高める(15) | 6. 新聞を毎日読む (44)     |
| 7. SPIなどの勉強 (78)  | 8. 学生同士の情報交換(83) | 9. インターン制度を利用する(42) |

10. 企業研究 (84)      11. 自分の長所をふやす(37)      12. 早期からの就職活動 (27)  
 その他（具体的に

Q2-1C あなたがそれらの対策をとったとして、あなたの就職活動にどの程度効果があると思いますか。

1 ほとんど効果ない	2 あまり効果ない	3 少しは効果がある	4 効果がある	不明・無回答	計
2	11	94	29	1	137

Q2-1D あなたがそれらの対策をとることで、あなたはどの程度安心できると思いますか。

1 まったく安心できない	2 あまり安心できない	3 少しは安心できる	4 安心できる	不明・無回答	計
7	35	81	13	1	137

[新型インフルエンザの流行]

Q2-2A 今年も新型インフルなども含めて予防接種の効かない強力なインフルエンザの流行が予想されています。あなたはどの程度不安を感じますか。

1 不安を感じていない	2 少し不安	3 まあ不安	4 不安	5 とても不安	計
56	41	29	9	2	137

Q2-2B インフルにかからないための方法はいろいろあります。あなたが実際にとると思う活動に○をつけてください。〔複数可〕

1. マスクを着用する(63)      2. うがいをする (100)      3. 手洗いをする (112)  
 4. 人ごみを避ける (17)      5. 乗客の多い車両を避ける( 4)      6. 予防接種を受ける( 50)  
 7. 体力をつける (29)      8. 栄養のあるものを食べる( 39)      9. 早く寝る ( 25)  
 その他（具体的に

Q2-2C あなたがそれらの対策をとったとして、あなたがインフルに感染しないことに対してどの程度効果があると思いますか。

1 ほとんど効果ない	2 あまり効果ない	3 少しは効果がある	4 効果がある	不明・無回答	計
5	11	94	24	3	137

Q2-2D あなたがそれらの対策をとることで、あなたはどの程度安心できますか。

1 まったく安心できない	2 あまり安心できない	3 少しは安心できる	4 安心できる	不明・無回答	計
5	22	85	22	3	137

[福島原発による食品の放射能汚染]

Q2-3A 放射能汚染など食料品による内部被ばくの危険性について、あなたはどの程度不安を感じますか。

1 不安を感じていない	2 少し不安	3 まあ不安	4 不安	5 とても不安	計
28	54	28	18	9	137

Q2-3B 放射能汚染を防ぐための方法はいろいろあります。あなたが実際にとると思う活動に○をつけてください。〔複数可〕

- 1. ミネラルウォーターを飲むようにする (28)
- 2. 産地を確かめて購入する (61)
- 3. インターネットで情報収集する (32)
- 4. 安い外食を避ける (8)
- 5. 外国産のものを食べる (3)
- 6. 東京をはなれる (2)
- 7. 調理に水道水を使わない (10)
- 8. 調理する前によく洗う (33)

その他 (具体的に

Q2-3C あなたは、それらの対策が内部被爆に対してどの程度効果があると思いますか。

1 ほとんど効果ない	2 あまり効果ない	3 少しは効果がある	4 効果がある	不明・無回答	計
34	45	46	4	8	137

Q2-3D そのような対策をとることで、あなたはどの程度安心できますか。

1 まったく安心できない	2 あまり安心できない	3 少しは安心できる	4 安心できる	不明・無回答	計
24	50	49	4	10	137

[東京での直下型大地震の発生]

Q2-4A 直下型大地震の発生について現在どの程度不安を感じていますか。

1 不安を感じていない	2 少し不安	3 まあ不安	4 不安	5 とても不安	不明・無回答	計
10	23	35	46	22	1	137

Q2-4B 直下型大地震の発生に対応する方法はいろいろあります。あなたが実際にとると思う活動に○をつけてください。〔複数可〕

- 1. 避難経路の確認 (50)
- 2. 飲食料品の備蓄 (80)
- 3. 懐中電灯の用意 (82)
- 4. 部屋の整理整頓 (24)
- 5. 倒壊防止金具の設置 (34)
- 6. iPhone や Android のソフト (49)
- 7. バッグに避難用品を入れる (36)
- 8. 携帯用充電器の用意 (47)
- 9. 発電機付きのラジオの用意 (22)

その他 (具体的に

Q2-4C あなたがそれらの対策をとったとして、直下型大地震への対応は、どの程度効果があると思いますか。

1 ほとんど効果ない	2 あまり効果ない	3 少しは効果がある	4 効果がある	不明・無回答	計
13	29	82	10	3	137

Q2-4D あなたがそれらの対策をとることで、あなたはどの程度安心できると思いますか。

1 まったく安心できない	2 あまり安心できない	3 少しは安心できる	4 安心できる	不明・無回答	計
10	52	64	8	3	137

Q3. あなたは、以下のことがらについてどの程度気がかりですか。1 まったく気にならない、2 あまり気にならない、3 少し気になる、4 かなり気になる、5 とても気になる、の5段階で答えてください。

	1 まったく気 にならない	2 あまり気に ならない	3 少し気 になる	4 かなり 気になる	5 とても 気になる	不明・ 無回答	計
1. 自分の人生の見通し	3	6	18	38	72	0	137
2. 就職できるか	4	8	13	30	82	0	137
3. 結婚できるか	10	9	26	34	58	0	137
4. 年金がもらえるのか	11	21	27	49	29	0	137
5. 体型の変化	7	14	20	45	51	0	137
6. ガンなどの重い病気にかかる	10	20	29	46	32	0	137
7. 老後ほげないか	16	33	30	34	24	0	137
8. 直下型地震にあう	10	14	30	42	40	1	137
9. 毎日の食品の安全性	19	39	46	25	8	0	137
10. ゴミ問題の悪化	31	43	39	18	6	0	137
11. 放射能汚染の進展	10	19	44	47	17	0	137
12. 日本の政治の現状	11	20	34	46	26	0	137
13. 日本経済の動向	9	16	29	57	26	0	137
14. 自然環境の破壊	11	21	47	40	18	0	137
15. 沖縄の基地問題	21	46	48	16	6	0	137
16. 今後の原発事故	7	14	37	54	25	0	137
17. 外国からの軍事的侵略	24	38	32	27	16	0	137

Q4. あなたは、次の項目がどの程度当てはまりますか。1まったく当てはまらない、2あまり当てはまらない、3どちらともいえない、4まあ当てはまる、5よく当てはまる、の5段階で教えてください。

	1 まったく 当ては まらない	2 あまり 当てはま らない	3 どちら ともいえ ない	4 まああ てはまる	5 よくあ てはまる	不明・ 無回答	計
1. 結果がどうなるかはっきりしないときは、いつも一番よい面を考える	24	25	31	38	18	1	137
2. 私には将来の目標がある	13	11	27	43	43	0	137
3. いつもものごとの明るい面を考える	11	35	32	36	23	0	137
4. 自分の将来に対して非常に楽観的である	17	29	35	36	20	0	137
5. 将来のことを考えて今から準備していることがある	20	33	45	26	13	0	137
6. 何か自分にまずいことになりそうだと思うとたいていそうなる	11	34	39	33	19	1	137
7. 自分に都合よく、ことが運ぶだろうとは期待しない	13	40	27	28	29	0	137
8. ものごとが自分の思い通りに運んだためしがない	33	55	29	12	8	0	137

Q5. あなたの日々の気分はいかがですか。

1 まったく落ち着かない	2 あまり落ち着かない	3 まあ落ち着いている	4 かなり落ち着いている	5 とても落ち着いている	計
3	36	83	8	7	137

Q6. あなたは、強いストレスを感じた時、ふだんのように対処しますか。1まったくしない、2たまにする、3ときどきする、4いつもする、の4段階で教えてください。

	1 まったく しない	2 たまにす る	3 ときどき する	4 いつもす る	不明・ 無回答	計
1. 現在の状況を変えるよう努力する	10	28	67	32	0	137
2. 先のことをあまり考えないようにする	23	48	42	24	0	137
3. 自分で自分を励ます	21	24	51	41	0	137
4. 物事の明るい面を見ようとする	9	30	47	51	0	137
5. 大した問題ではないと考える	19	33	37	48	0	137
6. 問題の原因を見つけようとする	6	28	50	53	0	137
7. いろいろと情報を集める	8	33	47	49	0	137
8. こんなこともあると思っあきらめる	18	30	47	42	0	137
9. 今の経験はためになると思うことにする	7	30	48	51	1	137

Q7. あなたは先の大地震で、どの程度怖い思いをしましたか。

1 あまり怖い思いをしなかった	2 まあ怖い思いをした	3 怖い思いをした	不明・無回答	計
23	62	51	1	137

Q8. あなたは放射能汚染についてどの程度不安を感じていますか。

1 まったく不安を感じていない	2 あまり不安を感じていない	3 少し不安を感じている	4 不安を感じている	不明・無回答	計
7	39	57	20	14	137

Q9. あなたの性別

1. 男性(39)      2. 女性(98)

Q10. あなたの学年

- 1年(0)      2年(68)      3年(60)      4年(9)

Q11. 住居

1. 自宅(97)      2. 自宅外(40)

Q12. あなたにとって、現在日本の「時代の気分（雰囲気とかイメージといったものです）」とは、どのようなものですか。できるだけ具体的に書いてください。